

## IV. 今後の環境健康科学研究教育センターに期待すること

清水 宏

環境健康科学研究教育センター 兼務教員

(北海道大学大学院医学研究科医学専攻感覚器病学講座 教授)

今ほど環境意識の高まった時代はありません。とりわけ、原発事故による放射能汚染、自動車の排気ガス、ホルモン攪乱物質、そしてシックハウス症候群等々多くの問題に見られるように、環境とその健康への影響に対する人々の関心は増すばかりです。このような時代に環境健康科学研究教育センターの果たすべき役割はますます大きく、また他分野との協力により新しい研究活動のハブたりうる大きな潜在力を持っていると考えます。

環境健康科学研究教育センターでは環境省エコチル調査や環境と子ども北海道スタディなどの大規模なコホートを対象とした研究プロジェクトを進行し、多くの研究成果をあげると同時に、「環境と健康」領域のリーダーたる人材育成が進められています。

当皮膚科学領域に限っても、アトピー性皮膚炎をはじめとしてその病態、治療において環境因子の影響が無視できない疾患が多くあります。アトピー性皮膚炎は、これまで病因が不明でしたが、私たちはその少なからぬ部分において皮膚バリア機能に関与するたんぱく質であるフィラグリン遺伝子の異常が原因となっていることを明らかにしてきました。また、フィラグリン遺伝子変異は、気管支喘息やアレルギー性鼻炎、ピーナッツアレルギーの重要な発症因子であることも明らかになっています。このように、環境物質が皮膚を介して健康に影響するという視点は非常に重要なものとなりつつあります。同様に多くの分野で、環境と健康をキーワードにした新たな視点がその重要性を増していると考えます。

環境健康科学研究教育センターが「環境と健康」分野において日本のみならず世界のリーダーとして、多くの研究分野と共同し、その中心となりながらこのような社会の要請に応じてゆくことを期待し、またそれを確信しております。

蔵田伸雄

環境健康科学研究教育センター 兼務教員

(北海道大学大学院文学研究科思想文化学専攻倫理学講座 教授)

種々の化学物質の人体に対するリスク・影響を広域にかつ長期間にわたって調査するというエコチル調査と本センターでの研究は、公衆衛生に対して大きな貢献をするだろうと期待しています。諸般の事情でセンターの活動に十分コミットできていませんが、研究倫理の面で今後も協力をしていきたいと思えます。公衆衛生の倫理や、化学物質のリスクに関する倫理は私が専門としている生命倫理・環境倫理でも重要なトピックの一つであり、また自分の研究テーマの一つでもあるので、本センターの活動からは今後も多くの示唆が得られると思えます。また、若い研究者の中に研究倫理に関する危惧や誤解があるようなので、研究倫理コンサルテーションとまではいなくても、倫理面で注意すべきことについてのアドバイスなどをする機会がもてればとも考えています。また、他のエコチル調査ユニットセンターで倫理問題を担当している研究仲間との意見交換も行いたいと考えています。研究の推進と人権の擁護のバランスをとることは難しいです。何よりも次の世代の子どもたちの利益を考えて、研究倫理面でのコミットを続けていきたいと考えています。

### 1. プロジェクト研究業績一覧

#### (1) 2012年

##### 1) 論文

[原著 (国際誌)]

**Effects of Maternal 5,10-Methylenetetrahydrofolate Reductase C677T or A1298C Polymorphisms and Tobacco Smoking on Infant Birthweight in a Japanese Population.**

著者：Yila TA, Sasaki S, Miyashita C, Braimoh TS, Kashino I, Kobayashi S, Okada E, Baba T, Yoshioka E, Minakami H, Endo T, Sengoku K and Kishi R.

雑誌名：Journal of Epidemiology

年・巻号：2012 in press

**Randomised controlled pilot study in Japan comparing a home visit program using a Functioning Improvement Tool with a home visit conversation alone.**

著者：Ukawa S, Yuasa M, Ikeno T, Yoshioka E, Satoh H, Murata W, Ikoma K, Kishi R.

雑誌名：Australasian Journal on Ageing

年・巻号：2012 in press

**The relationship between exposure to microbial volatile organic compound and allergy prevalence in single-family homes.**

著者：Araki A, Kanazawa A, Kawai T, Eitaki Y, Morimoto K, Nakayama K, Shibata E, Tanaka M, Takigawa T, Yoshimura T, Chikara H, Saijo Y, Kishi R.

雑誌名：Science of the Total Environment

年・巻号：2012 in press

**Prenatal exposure to perfluorinated chemicals and relationship with allergies and infectious diseases in infants.**

著者：Okada E, Sasaki S, Saijo Y, Washino N, Miyashita C, Kobayashi S, Konishi K, Ito YM, Ito R, Nakata A, Iwasaki Y, Saito K, Nakazawa H, Kishi R.

雑誌名：Environmental Research

年・巻号：2012 112(1): 118-125

**Validation of diffusive mini-samplers for aldehyde and VOC and its feasibility for measuring the exposure levels of elementary school children.**

著者：Araki A, Tsuboi T, Kawai T, Ait Bamai Y, Takeda T, Yoshioka E, Kishi R.

雑誌名：Journal of Environmental Monitoring

年・巻号：2012 14(2) : 368-374

**Short Sleep Duration and Poor Sleep Quality Increase the Risk of Diabetes in Japanese Workers with No Family History of Diabetes.**

著者：Kita T, Yoshioka E, Satoh H, Saijo Y, Kawaharada M, Okada E, Kishi R.

雑誌名：Diabetes Care

年・巻号：2012 35(2) : 313-318

[その他 (解説など)]

**胎生期低栄養と小児の健康**

著者：那須民江、岸玲子

雑誌名：日本衛生学雑誌

年・巻号：2012 67(1) : 21

## 2) 報告書

## 3) 学会発表

[国際学会]

**Phthalate in house dust and its relation to sick building syndrome and allergic symptoms**

発表者：Kishi R, Araki A, Saito I, Shibata E, Kanazawa A, Morimoto K, Nakayama K, Tanaka M, Takigawa T, Yoshimura T, Chikara H, Saijo Y.

学会名：30th Congress of the International Commission on Occupational Health(ICOH) (Cancun, Mexico)

開催日：2012/3/18-23

[国内学会]

**第14回日本衛生学会学会賞 受賞講演：「出生コホート研究による次世代影響解明など生涯を通じた人々の健康増進のための環境疫学研究」**

講演者：岸玲子

催し：第82回日本衛生学会学術総会（京都）

開催日：2012/3/26

**注意欠損・多動性障害（ADHD）の文献 Review(1)—有病率と発生に関する要因**

発表者：池野多美子、小林澄貴、馬場俊明、岸玲子

催し：第82回日本衛生学会学術総会（京都）

開催日：2012/3/24-26

#### 注意欠損・多動性障害（ADHD）の文献 Review(2)ー環境要因と遺伝要因、その相互作用

発表者：小林澄貴、池野多美子、馬場俊明、岸玲子

催し：第 82 回日本衛生学会学術総会（京都）

開催日：2012/3/24-26

#### 妊婦血と毛髪に環境化学物質に関連する要因 - 環境と子どもの健康北海道スタディ -

発表者：宮下ちひろ、佐々木成子、岡田恵美子、小林澄貴、蜂谷紀之、岩崎雄介、中澤裕之、梶原淳睦、戸高尊、岸玲子

催し：第 82 回日本衛生学会学術総会（京都）

開催日：2012/3/24-26

#### 札幌市小学生の喘息・鼻結膜炎有訴と自宅環境および気中 VOC・MVOC 濃度

発表者：荒木敦子、アイツバマイゆふ、河合俊夫、坪井樹、竹田智哉、多島秀司、鶴川重和、叢石、吉岡英治、岸玲子

催し：第 82 回日本衛生学会学術総会（京都）

開催日：2012/3/24-26

#### 小学生のシックハウス症候群の有訴と床ダスト中有機リン酸トリエステル類濃度との関係

発表者：多島秀司、荒木敦子、斎藤育江、河合俊夫、坪井樹、アイツバマイゆふ、竹田智哉、吉岡英治、鶴川重和、岸玲子

催し：第 82 回日本衛生学会学術総会（京都）

開催日：2012/3/24-26

#### シンポジウム 4（室内空気質連携研究会）：シックハウス症候群に関する全国規模の疫学研究ー化学物質、湿度環境、生物学的要因ー

発表者：荒木敦子、西條泰明、田中正敏、瀧川智子、吉村健清、森本兼曩、柴田英治、河合俊夫、斎藤育江、岸玲子

催し：第 82 回日本衛生学会学術総会（京都）

開催日：2012/3/24-26

#### 4) 講演

##### 日本における先行研究 環境と子どもの健康に関する北海道研究

講演者：岸玲子

催し：環境省「エコチル調査」国際シンポジウム（北九州）

開催日：2012/2/28

## (2) 2011 年

### 1) 論文

[原著 (国際誌)]

**Self-reported tobacco smoke exposure and plasma cotinine levels during pregnancy - A validation study in Northern Japan.**

著者: Sasaki S, Braimoh TS, Yila TA, Yoshioka E, Kishi R.

雑誌名: Science of the Total Environment

年・巻号: 2011 412-413 : 114-118

**Concentrations of polychlorinated dibenzo-p-dioxins, polychlorinated dibenzofurans, and polychlorinated biphenyls in blood and breast milk collected from pregnant women in Sapporo City, Japan.**

著者: Todaka T, Hirakawa H, Kajiwara J, Onozuka D, Sasaki S, Miyashita C, Yoshioka E, Yuasa M, Kishi R, Iida T, Uchi H, Furue M.

雑誌名: Chemosphere

年・巻号: 2011 85(11) : 1694-700

**Effects of prenatal exposure to dioxin-like compounds on allergies and infections during infancy.**

著者: Miyashita C, Sasaki S, Saijo Y, Washino N, Okada E, Kobayashi S, Konishi K, Kajiwara J, Todaka T, Kishi R.

雑誌名: Environmental Research

年・巻号: 2011 111 : 551-558

**Cohort Profile: The Hokkaido Study on Environment and Children's Health in Japan.**

著者: Kishi R, Sasaki S, Yoshioka E, Yuasa M, Sata F, Saijo Y, Kurahashi N, Tamaki J, Endo T, Sengoku K, Nonomura K, Minakami H; for the Hokkaido Study on Environment and Children's Health

雑誌名: International Journal of Epidemiology

年・巻号: 2011 40 : 611-618

**Relationships between mite allergen levels, mold concentrations, and sick building syndrome symptoms in newly built dwellings in Japan.**

著者: Saijo Y, Kanazawa A, Araki A, Morimoto K, Nakayama K, Takigawa T, Tanaka M, Shibata E, Yoshimura T, Chikara H, Kishi R.

雑誌名: Indoor Air

年・巻号: 2011 21(3) : 253-263

**The effect of a Functioning Improvement Tool home visit program on instrumental activities of daily living and depressive status in older people.**

著者：Ukawa S, Yuasa M, Ikeno T, Ikoma K, Kishi R.

雑誌名：International Journal of Geriatric Psychiatry

年・巻号：2011 in press

**A randomized controlled trial of a Functioning Improvement Tool home-visit program and its effect on cognitive function in older persons.**

著者：Shigekazu Ukawa, Hiroki Satoh, Motoyuki Yuasa, Tamiko Ikeno, Tomoko Kawabata, Atsuko Araki, Eiji Yoshioka, Waka Murata, Katsunori Ikoma, and Reiko Kishi

雑誌名：International Journal of Geriatric Psychiatry

年・巻号：2011 in press

**Gender differences in insomnia and the role of paid work and family responsibilities.**

著者：Yoshioka E, Saijo Y, Kita T, Satoh H, Kawaharada M, Fukui T, Kishi R.

雑誌名：Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology

年・巻号：2011 in press

**Relation between Self-Reported Sleep Duration and Arterial Stiffness: A Cross-Sectional Study of Middle-Aged Japanese Civil Servants.**

著者：Yoshioka E, Saijo Y, Kita T, Okada E, Satoh H, Kawaharada M, Kishi R.

雑誌名：Sleep

年・巻号：2011 34(12) : 1681-1686

[原著 (国内誌)]

**北海道の妊婦の全血中 POPs 系農薬の濃度 - 「環境と子どもの健康に関する北海道研究**

著者：金澤文子、宮下ちひろ、岡田恵美子、小林澄貴、鷺野考揚、湯浅資之、佐々木成子、吉岡英治、水谷太、  
菖木洋一、岸玲子

雑誌名：日本衛生学雑誌

年・巻号：2011 66 : 95-107

**札幌市戸建住宅における 3 年の室内環境とシックハウス症候群有訴の変化**

著者：荒木敦子、金澤文子、西條泰明、岸玲子

雑誌名：日本衛生学雑誌

年・巻号：2011 66(3) : 589-599

在宅高齢者生活機能向上ツールを用いた予防型家庭訪問 - 家庭訪問の意義と今後の課題 -

著者：鶴川重和、池野多美子、川畑智子、湯浅資之

雑誌名：保健師ジャーナル

年・巻号：2011 67(12)：1118-1123

企業労働者の抑うつと首尾一貫感覚（SOC）との関連

著者：河原田まり子、上田泉、平野美千代、吉岡英治、池野多美子、岸玲子

雑誌名：北方産業衛生

年・巻号：2011 48：9-14

[その他（解説など）]

スタートする「環境省エコチル調査」とその先駆的研究モデルとなった「北海道スタディ」について：これまでの成果と今後の課題

著者：岸玲子

雑誌名：北海道の公衆衛生

年・巻号：2011 37：37-41

環境と子どもの健康に関する北海道コホートの成果と今後の課題

著者：岸玲子

雑誌名：保健の科学

年・巻号：2011 53(2)：98-104

在宅高齢者生活機能向上ツールを用いた家庭訪問研究 - 認知機能への効果 -

著者：鶴川重和、佐藤浩樹、池野多美子、湯浅資之、川畑智子、吉岡英治、村田和香、生駒一憲、岸玲子

雑誌名：北海道農村医学会

年・巻号：2011 43：52-56

## 2) 報告書

平成 23 年度総括・分担研究報告書「前向きコホート研究に基づく先天異常、免疫アレルギーおよび小児発達障害のリスク評価と環境科学物質に対する遺伝的感受性の解明」

研究代表者：岸玲子

事業名：厚生労働科学研究費補助金 化学物質リスク研究事業

### 3) 学会発表

[国際学会]

**Effects of prenatal environmental tobacco smoke exposure on infant birth size.**

発表者：Titilola S. Braimoh, Seiko Sasaki, Thamar A. Yila, Toshiaki Baba, Chihiro Miyashita, Emiko Okada, Ikuko Kashino, Kumiko Ito, Sumitaka Kobayashi, Eiji Yoshioka, Reiko Kishi.

学会名：The American Public Health Association (APHA) 139th Annual Meeting and Exposition (Washington, DC, USA)

開催日：2011/10/29-11/2

**The effects of PFOS and PFOA in maternal serum on maternal and infant thyroid hormones**

発表者：Sachiko Itoh, Shizue Kato, Motoyuki Yuasa, Seiko Sasaki, Eiji Yoshioka, Ikuko Kashino, Emiko Okada, Chihiro Miyashita, Reiko Kishi

学会名：ISEE2011：23rd International Society for Environmental Epidemiology Conference (Barcelona, Spain)

開催日：2011/9/13-16

**Organophosphate triesters in house dust and its relation to allergic symptoms.**

発表者：Atsuko Araki, Tomoya Takeda, Ayako Kanazawa, Ikue Saito, Kanehisa Morimoto, Kunio Nakayama, Eiji Shibata, Masatoshi Tanaka, Tomoko Takigawa, Takesumi Yoshimura, Hisao Chikara, Yasuaki Saijo, Reiko Kishi

学会名：ISEE2011：23rd International Society for Environmental Epidemiology Conference (Barcelona, Spain)

開催日：2011/9/13-16

**Validation and feasibility study of the developed small diffusive samplers for aldehyde and VOC in elementary school children.**

発表者：Atsuko Araki, Toshio Kawai, Tazuru Tsuboi, Yu Ait Bamai, Tomoya Takeda, Eiji Yoshioka, Reiko Kishi

学会名：AIRMON2011：7th International Symposium on Modern Principles for Air Monitoring and Biomonitoring (Loen, Norway)

開催日：2011/6/19-23

**Effects of exposure to second-hand smoke during pregnancy on birth size.**

発表者：Titilola S. Braimoh, Seiko Sasaki, Thamar A. Yila, Toshiaki Baba, Chihiro Miyashita, Emiko Okada, Ikuko Kashino, Sumitaka Kobayashi, Eiji Yoshioka, Reiko Kishi.

学会名：Women's Health Conference (New York, USA)

開催日：2011/4/ 2



[国内学会]

**2008 札幌地区 自宅住環境とアトピー性皮膚炎に関する調査－札幌市の小学生 4,500 名を対象として－**

発表者：鶴川重和、荒木敦子、金澤文子、湯浅資之、アイツバマイゆふ、吉岡英治、叢石、多島秀司、岸玲子

学会名：第 63 回北海道公衆衛生学会（札幌）

開催日：2011/11/10-11

**2009-2010 札幌地区 自宅空气中化学物質濃度とシックハウス症候群に関する調査研究－札幌市小学生を対象として－**

発表者：荒木敦子、アイツバマイゆふ、坪井樹、河合俊夫、竹田智哉、早川敦司、吉岡英治、多島秀司、叢石、鶴川重和、岸玲子

学会名：第 63 回北海道公衆衛生学会（札幌）

開催日：2011/11/10-11

**2009-2010 札幌地区 小学生の住宅におけるハウスダスト中のエンドトキシンならびに beta- グルカン量と住宅特徴に関する調査**

発表者：叢石、荒木敦子、アイツバマイゆふ、竹田智哉、早川敦司、吉岡英治、多島秀司、鶴川重和、岸玲子

学会名：第 63 回北海道公衆衛生学会（札幌）

開催日：2011/11/10-11

**アルコール摂取と動脈硬化との関連**

発表者：森永幸子、吉岡英治、西條泰明、喜多歳子、岡田栄作、岸玲子

学会名：第 70 回日本公衆衛生学会総会（秋田）

開催日：2011/10/19-21

**肥満と睡眠時間による糖尿病発症リスク**

発表者：喜多歳子、吉岡英治、西條泰明、河原田まり子、岸玲子

学会名：平成 23 年度日本産業衛生学会北海道地方会（美唄）

開催日：2011/10/15

**アルコール摂取と動脈硬化との関連**

発表者：森永幸子、吉岡英治、西條泰明、喜多歳子、岡田栄作、岸玲子

学会名：平成 23 年度日本産業衛生学会北海道地方会（美唄）

開催日：2011/10/15

環境リスクの次世代影響：わが国で最初の本格的な出生コホートによる先天異常・発達・免疫アレルギーの検討  
「環境と子どもの健康に関する北海道研究」

発表者：岸玲子

催し：第28回日本医学会総会（東京）

開催日：2011/9/18

シックハウス症状解明のための超小型、軽量、拡散型サンプラーの開発－アルデヒド測定用サンプラー

発表者：河合俊夫、坪井樹、乾谷正樹、荒木敦子、岸玲子、住野公昭

学会名：第84回日本産業衛生学会（東京）

開催日：2011/5/18-20

シックハウス症状解明のための超小型、軽量、拡散型サンプラーの開発－VOC測定用サンプラー

発表者：坪井樹、河合俊夫、乾谷正樹、荒木敦子、大前和幸、住野公昭、岸玲子

学会名：第84回日本産業衛生学会（東京）

開催日：2011/5/18-20

妊婦葉酸値と先天異常リスクとの関連 - 環境と子どもの健康に関する北海道スタディ (1)-

発表者：伊藤久美子、佐々木成子、Yila TA、馬場俊明、宮下ちひろ、檜野いく子、岡田恵美子、小林澄貴、吉岡英治、岸玲子

学会名：第81回日本衛生学会学術総会（東京）

開催日：2011/3/25-28

抗エストロゲン様作用 PCBs 曝露と出生体格との関連 - 環境と子どもの北海道スタディ (2)-

発表者：宮下ちひろ、佐々木成子、岡田恵美子、小林澄貴、西條泰明、吉岡英治、馬場俊明、梶原淳睦、戸高尊、岸玲子

学会名：第81回日本衛生学会学術総会（東京）

開催日：2011/3/25-28

母体血中ダイオキシン類と6ヶ月・18ヶ月児の精神・運動発達への影響 - 環境と子どもの健康に関する北海道スタディ (3)-

発表者：中島そのみ、佐々木成子、加藤静恵、鶴野安希子、中村裕二、仙石泰仁、梶原淳睦、西條泰明、岸玲子

学会名：第81回日本衛生学会学術総会（東京）

開催日：2011/3/25-28

生後 42 ヶ月児における認知能と胎児期 PCB・ダイオキシン類曝露との関連 - 環境と子どもの健康に関する北海道  
スタディ (4)-

発表者：小西香苗、坂晋、佐々木成子、鷺野孝揚、吉岡英治、梶原淳睦、戸高尊、中島そのみ、岸玲子

学会名：第 81 回日本衛生学会学術総会（東京）

開催日：2011/3/25-28

札幌市小学生のシックハウス症候群有訴と自宅の気中化学物質濃度

発表者：荒木敦子、アイツバマイゆふ、竹田智哉、河合俊夫、坪井樹、早川敦司、吉岡英治、岸玲子

学会名：第 81 回日本衛生学会学術総会（東京）

開催日：2011/3/25-28

シンポジウム 3（室内空気質連携研究会）：シックハウス症候群に関する全国疫学研究（その全体像と何がわかったか）

発表者：岸玲子、荒木敦子

学会名：第 81 回日本衛生学会学術総会（東京）

開催日：2011/3/25-28

連携研究会 6（室内空気質連携研究会）：微生物由来 VOC による室内空気室汚染の実情と健康影響

発表者：荒木敦子、岸玲子

学会名：第 81 回日本衛生学会学術総会（東京）

開催日：2011/3/25-28

AhR および AhRR 遺伝子多型と母体血中ダイオキシン類濃度との関連 - 「環境と子どもの健康に関する北海道スタディ」

発表者：小林澄貴、佐々木成子、坂晋、宮下ちひろ、岡田恵美子、Limpar M、吉岡英治、梶原淳睦、戸高尊、岸玲子

学会名：第 21 回日本疫学会学術総会（札幌）

開催日：2011/1/21-22

#### 4) 講演

働くもののいのちと健康を守る全国センター 講演

講演者：岸玲子

催し：働くもののいのちと健康を守る全国センター 第 14 回総会（東京）

開催日：2011/12/9

## 北海道の環境問題と医療

講演者：岸玲子

催し：北海道地域医療研修学会 平成 23 年度総会・定期研究会 (札幌)

開催日：2011/10/29

## 環境汚染による潜在的な健康リスクについて～その予防原則を考えながら～

講演者：岸玲子

催し：恵迪寮同窓会 第 12 回開識者講演会 (札幌)

開催日：2011/10/13

## 健康リスクとリスクコミュニケーション

講演者：岸玲子

催し：日本学術会議・日本生物環境工学会 市民公開シンポジウム「安全・安心な社会のための食料・健康・環境」  
(札幌)

開催日：2011/9/7

## 北海道の室内環境と健康

講演者：荒木敦子

催し：市民講演会「スウェーデンに学ぶ、室内環境と健康」(札幌)

開催日：2011/3/2

## "正規・非正規"を超えて 働く人の健康と安全のための新しいシステム構築の動き

講演者：岸玲子

催し：北海道医師会 (札幌)

開催日：2011/1/28

## 社会経済環境が激変する中での公衆衛生 (健康・生活・安全)

著者：岸玲子

催し：北海道衛生公衆衛生セミナー発足 20 年記念講演会 (札幌)

開催日：2011/1/15

## 5) 賞

平成 23 年 第 7 回北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科 音羽博次奨学金

受賞者：鶴川 重和 (環境健康科学研究教育センター 訪問研究員)

平成 23 年度 北海道公衆衛生協会賞

表彰論文名：札幌市戸建住宅における 3 年の室内環境とシックハウス症候群有訴の変化

著者：荒木敦子、金澤文子、西條泰明、岸玲子

平成 23 年度 第 14 回日本衛生学会 学会賞

研究業績：出生コホート研究による次世代影響解明など生涯を通じた人々の健康増進のための環境疫学研究」

受賞者：岸 玲子（環境健康科学研究教育センター センター長・特任教授）

### (3) 2010 年

#### 1) 論文

[原著 (国際誌)]

**Genetic Polymorphisms of 17  $\beta$ -Hydroxysteroid Dehydrogenase 3 and the Risk of Hypospadias.**

著者：Sata F, Kurahashi N, Ban S, Moriya K, Tanaka KD, Ishizuka M, Nakao H, Yahata Y, Imai H, Kakizaki H, Nonomura K, Kishi R.

雑誌名：The Journal of Sexual Medicine

年・巻号：2010 7(8):2729-38

**Relationship between the concentrations of polychlorinated dibenzo-p-dioxins, polychlorinated dibenzofurans, and polychlorinated biphenyls in maternal blood and those in breast milk.**

著者：Todaka T, Hirakawa H, Kajiwara J, Hori T, Tobiishi K, Yasutake D, Onozuka D, Sasaki S, Miyashita C, Yoshioka E, Yuasa M, Kishi R, Iida T, Furue M.

雑誌名：Chemosphere

年・巻号：2010 78(2) : 185-192

**Relationship between selected indoor volatile organic compounds, so-called microbial VOC, and the prevalence of mucous membrane symptoms in single family homes.**

著者：Araki A, Kawai T, Eitaki Y, Kanazawa A, Morimoto K, Nakayama K, Shibata E, Tanaka M, Takigawa T, Yoshimura T, Chikara H, Saijo Y, Kishi R.

雑誌名：Science of the Total Environment

年・巻号：2010 408(10) : 2208-2215

**Relationship between indoor chemical concentrations and subjective symptoms associated with sick building syndrome in newly built houses in Japan.**

著者：Takigawa T, Wang BL, Saijo Y, Morimoto K, Nakayama K, Tanaka M, Shibata E, Yoshimura T, Chikara H, Ogino K, Kishi R.

雑誌名：International Archives of Occupational and Environmental Health

年・巻号：2010 83(2) : 225-235

Association between indoor exposure to semi-volatile organic compounds and building-related symptoms among the occupants of residential dwellings.

著者：Kanazawa A, Saito I, Araki A, Takeda M, Ma M, Saijo Y, Kishi R.

雑誌名：Indoor Air

年・巻号：2010 20(1)：72-84

[原著 (国内誌)]

環境化学物質の次世代影響に関するわが国における研究事例 - 北海道スタディの概要とこれまでの成果

著者：岸玲子、佐々木成子

雑誌名：医学のあゆみ

年・巻号：2010 235(11)：1117-1121.

シックハウス症候群についての全国規模の疫学調査研究—寒冷地札幌市と本州・九州の戸建住宅における環境要因の比較—.

著者：金澤文子、西條泰明、田中正敏、吉村健清、力寿雄、瀧川智子、森本兼曩、中山邦夫、柴田英治、岸玲子

雑誌名：日本衛生学雑誌

年・巻号：2010 65：447-458

小学生のシックハウス症候群の有訴と自宅の床ダスト中リン酸トリエステル類濃度との関連

著者：竹田智哉、荒木敦子、アイツバマイゆふ、斎藤育江、早川敦司、吉岡英治、金澤文子、湯浅資之、岸玲子

雑誌名：北海道公衆衛生学雑誌

年・巻号：2010 24(2)：73-84

[その他 (解説など)]

子どもの環境と健康：「北海道スタディ」と環境省エコチル研究

著者：岸玲子

雑誌名：北海道小児保健研究会会誌

年・巻号：2010 2-8

シックハウス症候群に関する研究の現状と今後の課題

著者：岸玲子、荒木敦子

雑誌名：公衆衛生

年・巻号：2010 74(4)：295-298

環境リスクによる潜在的な健康障害の解明—特に次世代影響に関する研究

著者：岸玲子

雑誌名：日本医師会雑誌

年・巻号：2010 138(10)：56-59

人間らしい労働と健康で安寧な生活を確保するためのシステム構築

著者：岸玲子、宮本太郎

雑誌名：学術の動向

年・巻号：2010 15(10)：59-64

日本学術会議の「労働雇用と安全衛生」委員会の活動について－30年ぶりの提言に向けて

著者：岸玲子

雑誌名：産業医学ジャーナル

年・巻号：2010 33(5)：78-81

## 2) 報告書

平成22年度総括・分担研究報告書「前向きコホート研究による先天異常モニタリング、特に尿道下裂、停留精巣のリスク要因と環境化学物質に対する感受性の解明」

研究代表者：岸玲子

事業名：厚生労働科学研究費補助金 化学物質リスク研究事業

平成20-22年度総合研究報告書「前向きコホート研究による先天異常モニタリング、特に尿道下裂、停留精巣のリスク要因と環境化学物質に対する感受性の解明」

研究代表者：岸玲子

事業名：厚生労働科学研究費補助金 化学物質リスク研究事業

平成22年度 総括・分担研究報告書「シックハウス症候群の原因解明のための全国規模の疫学研究 - 化学物質及び真菌・ダニ等による健康影響の評価と対策」

研究代表者：岸玲子

事業名：厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業

平成20-22年度 総合研究報告書「シックハウス症候群の原因解明のための全国規模の疫学研究 - 化学物質及び真菌・ダニ等による健康影響の評価と対策」

研究代表者：岸玲子

事業名：厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業

平成20-22年度科学研究費補助金「作業バランス自己診断に着目したテラーメイド型介護予防法の開発：無作為介入研究」研究成果報告書

研究代表者：湯浅資之 研究分担者：池野多美子

## 3) 学会発表

[国際学会]

**Symposium (Longitudinal Birth Cohort Studies in Asia) : Japan Environment and Children's Study (JECS)**

発表者 : Toshihiro Kawamoto, Naoya Tsukamoto, Masaharu Tanto, Hiroshi Nitta, Katsutaka Murata, Fujio Kayama, Reiko Kishi, Hiroshi Satoh

学会名 : ISES- ISEE 2010 : Joint Conference of International Society of Exposure Science & International Society for Environmental Epidemiology (Seoul, Korea)

開催日 : 2010/8/28-9/1

**Relationship between AhR gene polymorphisms and dioxin concentrations in maternal blood- Hokkaido Study on Environment and Children's Health-**

発表者 : Sasaki S, Kobayashi S, Ban S, Yoshioka E, Miyashita C, Okada E, Limpar M, Yila TA, Baba T, Braimoh TS, Kashino I, Otake Y, Kanazawa A, Yuasa M, Kajiwara J, Todaka T, Kishi R.

学会名 : ISES-ISEE 2010 : Joint Conference of International Society of Exposure Science & International Society for Environmental Epidemiology (Seoul, Korea)

開催日 : 2010/8/28-9/1

**Prenatal Exposure to Dioxins in Relation to Allergy and Infection in Infancy- Hokkaido Study on Environment and Children's Health-**

発表者 : Miyashita C, Sasaki S, Yoshioka E, Yila TA, Baba T, Braimoh TS, Kashino I, Okada E, Kobayashi S, Otake Y, Limpar M, Kajiwara J, Todaka T, Kishi R.

学会名 : ISES-ISEE 2010 : Joint Conference of International Society of Exposure Science & International Society for Environmental Epidemiology (Seoul, Korea)

開催日 : 2010/8/28-9/1

**Maternal Smoking and Alcohol Use During Pregnancy, Common Metabolic Polymorphisms and the Risk of Recurrent Pregnancy Loss**

発表者 : Fumihiro Sata, Hideto Yamada, Hisanori Minakami, Reiko Kishi, Hiroyuki Nakao, Hirohisa Imai

学会名 : ISES-ISEE 2010 : Joint Conference of International Society of Exposure Science & International Society for Environmental Epidemiology (Seoul, Korea)

開催日 : 2010/8/28-9/1

**Symposium (Chemical Exposures During Pregnancy and Development and Disease in Infants) : Sex Difference of Prenatal Effects to Dioxins Exposure on Birth Weight, Development, and Infectious Diseases in Offsprings; The Hokkaido Study on Environment and Children's Health in Japan**

発表者 : Reiko Kishi

学会名 : ISES-ISEE 2010 : Joint Conference of International Society of Exposure Science & International Society for Environmental Epidemiology (Seoul, Korea)

開催日 : 2010/8/28-9/1



**Prevalence of Asthma, Atopic Dermatitis and Rhinitis and MVOC Exposure in Single Family Homes - A Survey in Six Cities of Japan**

発表者：Atsuko Araki, Toshio Kawai, Yoko Eitaki, Ayako Kanazawa, Kanehisa Morimoto, Kunio Nakayama, Eiji Shibata, Masatoshi Tanaka, Tomoko Takigawa, Takesumi Yoshimura, Hisao Chikara, Yasuaki Saijo, Reiko Kishi

学会名：ISES-ISEE 2010：Joint Conference of International Society of Exposure Science & International Society for Environmental Epidemiology (Seoul, Korea)

開催日：2010/8/28-9/1

**Prevention of Ill-health Effects of Stress and Lifestyle (Part 55): Relationship among Sick Building Syndrome, Volatile Organic Compounds, and Lifestyle in Japan.**

発表者：Nakayama K, Morimoto K, Kishi R, Saijo Y, Tanaka M, Yoshimura T, Chikara H, Takigawa T, Shibata E.

学会名：International Symposium on Occupational and Environmental Allergy and Immune Diseases 2010 (Kyoto, Japan)

開催日：2010/4/7-9

**Effect of Preventive Home Visits using the Functioning Improvement Tool for the Elderly: a Randomized Control Trial**

発表者：Yuasa M, Ikeno T, Ukawa S, Katsumata M, Kawabata T, Sato H, Yoshioka E, Kishi R.

学会名：The Joint Scientific Meeting of IEA Western Pacific Region and Japan Epidemiological Association (Saitama, Japan)

開催日：2010/1/9-10

**[国内学会]**

**睡眠不足による糖尿病発症への家族歴の影響**

発表者：喜多歳子、吉岡英治、西條泰明、岡田栄作、河原田まり子、岸玲子

学会名：第69回日本公衆衛生学会（東京）

開催日：2010/10/26-29

**小学生のシックハウス症候群と住環境に関する研究(1) 住宅特徴および床ダスト中リン酸トリエステル類濃度**

発表者：竹田智哉、荒木敦子、斎藤育江、アイツバマイゆふ、早川敦司、吉岡英治、岸玲子

学会名：第62回北海道公衆衛生学会（旭川）

開催日：2010/9/18

**小学生のシックハウス症候群と住環境に関する研究(2) ダスト中フタル酸エステル類濃度との関連**

発表者：アイツバマイゆふ、荒木敦子、斎藤育江、竹田智哉、早川敦司、吉岡英治、岸玲子

学会名：第62回北海道公衆衛生学会（旭川）

開催日：2010/9/18

#### 1日あたりの睡眠時間と動脈硬化との関連

発表者：吉岡英治、西條泰明、喜多歳子、岡田栄作、佐藤浩樹、福井知範、河原田まり子、岸玲子  
学会名：第83回日本産業衛生学会総会（福井）  
開催日：2010/5/26-28

#### 室内環境汚染物質 51 物質の分析・測定技術

発表者：坪井樹、永滝陽子、河合俊夫、住野公昭、荒木敦子、大前和幸、岸玲子  
学会名：第83回日本産業衛生学会（福井）  
開催日：2010/5/26-28

#### 北海道スタディグループ・コホートプロフィール - 「環境と子どもの健康 北海道スタディ」(1)-

発表者：岸玲子、佐々木成子、吉岡英治、湯浅資之、佐田文宏、西條泰明、倉橋典絵、玉置淳子  
学会名：第80回日本衛生学会学術総会（仙台）  
開催日：2010/5/9-11

#### 母体血中ダイオキシン類の異性体濃度と乳幼児期の感染症との関連 - 「環境と子どもの健康 北海道スタディ」(2)-

発表者：宮下ちひろ、佐々木成子、鷺野考揚、小西香苗、岡田恵美子、吉岡英治、湯浅資之、梶原淳睦、戸高尊、岸玲子  
学会名：第80回日本衛生学会学術総会（仙台）  
開催日：2010/5/9-11

#### 妊婦の喫煙と血中ダイオキシン類濃度との関連 - 「環境と子どもの健康 北海道スタディ」(3)-

発表者：坂晋、佐々木成子、小西香苗、吉岡英治、鷺野考揚、戸高尊、平川博仙、梶原淳睦、岸玲子  
学会名：第80回日本衛生学会学術総会（仙台）  
開催日：2010/5/9-11

#### 難分解性有機塩素系農薬の妊婦への曝露状況 - 「環境と子どもの健康 北海道スタディ」(4)-

発表者：金澤文子、佐々木成子、鷺野考揚、宮下ちひろ、岡田恵美子、小林澄貴、吉岡英治、水谷太、菅木洋一、岸玲子  
学会名：第80回日本衛生学会学術総会（仙台）  
開催日：2010/5/9-11

#### First Trimester Serum Folate Status of Japanese Women in Hokkaido-The Hokkaido Study on Environment and Children's Health (5) -

発表者：Yila TA, Sasaki S, Baba T, Miyashita C, Braimoh TS, Kashino I, Kobayashi S, Okada E, Yoshioka E, Kishi R.  
学会名：第80回日本衛生学会学術総会（仙台）  
開催日：2010/5/9-11

**Self-Reported Exposure to Environmental Tobacco Smoke and Plasma Cotinine during Pregnancy-The Hokkaido Study on Environment and Children's Health (6) -**

発表者：Brimoh TS, Sasaki S, Yila TA, Baba T, Miyashita C, Okada E, Kashino I, Kobayashi S, Yoshioka E, Kishi R.

学会名：第 80 回日本衛生学会学術総会 (仙台)

開催日：2010/5/9-11

**子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の実施に向けて：胎児期および小児期曝露による健康影響評価の重要性：環境省 feasibility study に参加して**

講演者：岸玲子

催し：第 80 回日本衛生学会学術総会 (仙台)

開催日：2010/5/9-11

**喫煙者の有無別にみた室内環境化学物質濃度とシックハウス症候群の自覚症状**

発表者：アイツバマイゆふ、荒木敦子、西條泰明、森本兼曩、中山邦夫、瀧川智子、田中正敏、柴田英治、吉村健清、力寿雄、岸玲子

学会名：第 80 回日本衛生学会学術総会 (仙台)

開催日：2010/5/9-11

**シックハウス症候群についての全国規模の疫学調査研究 寒冷地札幌市と本州・九州の戸建住宅における環境要因の比較**

発表者：金澤文子、西條泰明、田中正敏、吉村健清、力寿雄、瀧川智子、森本兼曩、中山邦夫、柴田英治、岸玲子

学会名：第 80 回日本衛生学会学術総会 (仙台)

開催日：2010/5/9-11

**ストレスとライフスタイルに関する予防医学研究 53：シックハウス症状と居間・寝室の VOC**

発表者：中山邦夫、森本兼曩、岸玲子、竹田誠、西條泰明、田中正敏、柴田英治、瀧川智子、吉村健清、力寿雄

学会名：第 80 回日本衛生学会学術総会 (仙台)

開催日：2010/5/9-11

**新築家屋におけるシックハウス症候群に関する環境リスク因子についての縦断研究**

発表者：瀧川智子、王炳玲、坂野紀子、汪達紘、萩野景規、岸玲子

学会名：第 80 回日本衛生学会学術総会 (仙台)

開催日：2010/5/9-11

シンポジウム（アレルギー疾患の疫学研究）：環境と子どもの免疫アレルギー - 胎児期曝露による次世代影響に関する北海道コーホート研究

発表者：岸玲子

学会名：第22回日本アレルギー学会春季臨床大会（京都）

開催日：2010/5/8-9

#### 4) 講演

オープニング行事 第4分科会（高齢者の健康と介護：幸せとは？）：北海道における介護予防活動 - 予防型家庭訪問の事例 -」ひとり一人がすこやかに人間らしく生きる社会を目指して～わたしたちが直面する危機の原因を包括的に探る～

講演者：池野多美子

催し：北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2010（札幌）

開催日：2010/10/26

自然と社会の健康への影響 2010年4月北海道大学に「環境と健康全学センター」が発足 その意義と課題

著者：岸玲子

催し：北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2010：オープニングシンポジウム（札幌）

開催日：2010/10/25

環境と子どもの北海道スタディの成果と今後の環境省全国調査について

講演者：岸玲子

催し：北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2010 市民公開講演会「みんなで考えよう - 身近な環境と子どもの健康 -」（札幌）

開催日：2010/10/24

私たちを取り巻く身近な環境

講演者：宮下ちひろ

催し：北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2010 市民公開講演会「みんなで考えよう - 身近な環境と子どもの健康 -」（札幌）

開催日：2010/10/24

子どもの健康はおうちの健康から

講演者：荒木敦子

催し：北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2010 市民公開講演会「みんなで考えよう - 身近な環境と子どもの健康 -」（札幌）

開催日：2010/10/24

特別講演「"正規・非正規"を超えて、働く人の健康と安全を考える」

著者：岸玲子

催し：日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会（東京）

開催日：2010/10/15

日本の健康格差・貧困問題：我が国における特徴と課題

著者：岸玲子

催し：日本学会会議 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス

分科会：社会格差と健康に関する市民公開シンポジウム（東京）

開催日：2010/7/30

子どもの環境と健康：「北海道スタディ」と環境省エコチル研究

講演者：岸玲子

催し：北海道小児保健研究会 H22 年度総会（札幌）

開催日：2010/5/15

聴き手からみえる語り手の変化－臨床心理士の立場から

講演者：池野多美子

催し：北海道大学大学院文学研究科公開シンポジウム『人の語りから人を知る』（札幌）

開催日：2010/2/19

## 5) 賞

ベストポスター賞：Does dietary estrogen intake from meat relate to the incidence of hormone-dependent cancers?

発表者：Y. Handa, H. Fujita, Y. Watanabe, S. Honma, M. Kaneuchi, H. Minakami, R. Kishi

学会名：American Society of Clinical Oncology 2010 Annual Meeting（Chicago, USA）

開催日：2010/6/4-8

平成 22 年度 第 29 回温泉関連功労者表彰（環境大臣表彰）

受賞者：大塚吉則（環境健康科学研究教育センター 兼務教員・北海道大学大学院教育学研究員教育学部門人間発達科学分野 教授）

平成 22 年度 北海道大学 大塚賞

受賞者：荒木敦子（環境健康科学研究教育センター 学術研究員）

## V. 業績一覧

---

### 2. その他の業績一覧

西村正治

環境健康科学研究教育センター 兼務教員  
(北海道大学大学院医学研究科呼吸器内科学分野 教授)

Isada A, Konno S, Hizawa N, Tamari M, Hirota T, Harada M, Maeda Y, Hattori T, Takahashi A, Nishimura M. : “A functional polymorphism ( - 603A → G) in the tissue factor gene promoter is associated with adult-onset asthma”, *J Hum Genet*, 55 : 167-174(2010)

Hattori T, Konno S, Takahashi A, Isada A, Shigemura M, Matsuno K, Shimizu C, Hizawa N, Yamaguchi E, Nishimura M. : “The role of atopy in the clinical course of pulmonary sarcoidosis in the Japanese population”, *Allergy Asthma Proc*, 31 : 238-243(2010)

Hattori T, Konno S, Takahashi A, Isada A, Shimizu K, Shimizu K, Taniguchi N, Gao P, Yamaguchi E, Hizawa N, Huang SK, Nishimura M. : “Genetic variants in mannose receptor gene(MRC1) confer susceptibility to increased risk of sarcoidosis”, *BMC Med Genetics*, 11 : 151-156(2010)

Shimizu K, Hasegawa M, Makita H, Nasuhara Y, Konno S, Nishimura M. : “Airflow limitation and airway dimensions assessed per bronchial generation in older asthmatics”, *Respir Med*, 104 : 1809-1816(2010)

Fukutomi Y, Nakamura H, Kobayashi F, Taniguchi M, Konno S, Nishimura M, Kawagishi Y, Watanabe J, Komase Y, Akamatsu Y, Okada C, Tanimoto Y, Takahashi K, Kimura T, Eboshida A, Hirota R, Ikei J, Odajima H, Nakagawa T, Akasawa A, Akiyama K. : “Nationwide cross-sectional population-based study on the prevalences of asthma and asthma symptoms among Japanese adults”, *Int Arch Allergy Immunol*, 153 : 280-287(2010)

Gao PS, Shimizu K, Grant AV, Rafaels N, Zhou LF, Hudson SA, Konno S, Zimmermann N, Araujo MI, Ponte E, Cruz AA, Nishimura M, Su SN, Hizawa N, Beaty TH, Mathias RA, Rothenberg ME, Barnes KC, Bochner BS. : “Polymorphisms in the sialic acid-binding immunoglobulin-like lectin-8 (Siglec-8) gene are associated with susceptibility to asthma”, *Eur J Hum Genet* , 18 : 713-719(2010)

Osawa R, Konno S, Akiyama M, Nemoto-Hasebe I, Nomura T, Nomura Y, Abe R, Sandilands A, McLean WH, Hizawa N, Nishimura M, Shimizu H. :” Japanese-Specific Filaggrin Gene Mutation in Japanese Patients Suffering from Atopic Eczema and Asthma” ,*J Invest Dermatol*, 130: 2834-2836(2010)

Shimizu K, Hasegawa M, Makita H, Nasuhara Y, Konno S, Nishimura M: “Comparison of airway remodeling assessed by computed tomography in asthma and COPD” ,*Respiratory Medicine* 105: 1275-1283(2011)

Konno S, Makita H, Hasegawa M, Nasuhara Y, Nagai K, Betsuyaku T, Hizawa N, Nishimura M: "Beta2-adrenergic receptor polymorphisms as a determinant of preferential bronchodilator responses to  $\beta$  2-agonist and anticholinergic agents in Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease" , *Pharmacogenet Genomics*, 21(11):687-693(2011)

Fukutomi Y, Taniguchi M, Nakamura H, Konno S, Nishimura M, Kawagishi Y, Okada C, Tanimoto Y, Takahashi K, Akasawa A, Akiyama K:" Association between Body Mass Index and Asthma among Japanese Adults: Risk within the Normal Weight Range" , *Int Arch Allergy Immunol*, 157(3):281-287(2011)

Konno S, Kurokawa M, Ueda T, Nishimura M, Huang SK:" Role of osteopontin, a multifunctional protein, in allergy and asthma" , *Clin Exp Allergy*,41(10):1360-1366(2011)

Nishimura M, Makita H, Nagai K, Konno S, Nasuhara Y, Hasegawa M, Shimizu K, Betsuyaku T, Ito YM, Fuke S, Igarashi T, Akiyama Y, Ogura S:" Annual Change in Pulmonary Function and Clinical Phenotype in Chronic Obstructive Pulmonary Disease" , *Am J Respir Crit Care Med*, 185(1):44-52(2012)

Konno S, Hizawa N, Fukutomi Y, Taniguchi M, Kawagishi Y, Okada C, Tanimoto Y, Takahashi K, Akasawa A, Akiyama K, Nishimura M:" The prevalence of rhinitis and its association with smoking and obesity in a nationwide survey of Japanese adults" , *Allergy*, in press

Hattori H, Konno S, Shigemura M, Matsuno K, Shimizu C, Shigehara K, Shijubo N, Hizawa N, Yamaguchi E, Nishimura M:" Total serum IgE levels and atopic status in patients with sarcoidosis" , *Allergy Asthma Proc*, in press

## 清水 宏

環境健康科学研究教育センター 兼務教員

(北海道大学大学院医学研究科医学研究科医学専攻感覚器病学講座 教授)

1. Watanabe M, Ujiie H, Iitani MM, Abe R, Shimizu H:

Psoriatic onycho-pachydermo periostitis that progressed to generalized pustular psoriasis.

*Clin Exp Dermatol*, in press.

2. Ujiie H, Shibaki A, Nishie W, Shinkuma S, Moriuchi R, Qiao H, Shimizu H:

Noncollagenous 16A domain of type XVII collagen-reactive CD4(+) T cells play a pivotal role in the development of active disease in experimental bullous pemphigoid model.

*Clin Immunol*, in press.

3. Shimizu S, Inokuma D, Watanabe M, Sakai T, Yamamoto S, Tsuchiya K:  
Cutaneous Manifestations of Helicobacter Cinaedi Infection.  
J Am Acad Dermatol, in press.
4. Sasaki K, Akiyama M, Yanagi T, Sakai K, Miyamura Y, Satok M, Shimizu H:  
CYP4F22 is highly expressed at the site and onset of keratinization during human skin development.  
J Dermatol Sci, in press.
5. Pavlovic S, Krunic AL, Bulj TK, Medenica MM, Fong K, Arita K, McGrath JA:  
Acral Peeling Skin Syndrome: A Clinically and Genetically Heterogeneous Disorder.  
Pediatr Dermatol, in press.
6. Natsuga K, Shinkuma S, Kanda M, Suzuki Y, Chosa N, Narita Y, Setoyama M, Nishie W, Akiyama M, Shimizu H:  
Possible modifier effects of keratin 17 gene mutation on keratitis-ichthyosis-deafness syndrome.  
Br J Dermatol, in press.
7. Mizuno O, Yanagi T, Baba K, Yamane N, Inokuma D, Ito K, Akiyama M, Shimizu H:  
Sweet's syndrome presenting with vegetative nodules on the hands: relationship to neutrophilic dermatosis of the dorsal hands.  
Int J Dermatol, in press.
8. Koguchi H, Arita K, Yamane N, Shinkuma S, Shimizu H:  
Erythema annulare centrifugum-like neutrophilic dermatosis: Effects of potassium iodide.  
Acta Derm Venereol, in press.
9. Izumi K, Yanagi T, Akiyama M, Moriuchi R, Arita K, Shimizu H:  
Intractable erythematous plaques on the hands: palmoplantar eosinophilic pustular folliculitis.  
Int J Dermatol, in press.
10. Hsu CK, Akiyama M, Shimizu H:  
Update on filaggrin mutations and atopic dermatitis.  
Expert Rev Dermatol, in press.
11. Homma E, Aoyagi S, Baba K, Iitani M, Hata H, Shimizu H:  
Angiosarcoma on the lower abdominal wall associated with chronic lymphedema in an obese woman.  
Int J Dermatol, in press.



12. Hirata Y, Abe R, Kikuchi K, Hamasaka A, Shinkuma S, Nomura T, Nishie W, Arita K, Shimizu H:  
Intraepidermal neutrophilic IgA pemphigus successfully treated with dapson.  
*Eur J Dermatol*, in press.
13. Hayashi I, Shinkuma S, Shimizu S, Natsuga K, Ujiie H, Yasui C, Tsuchiya K, Nishie W, Shimizu H:  
Mucous membrane pemphigoid with generalized blisters: IgA and IgG autoantibodies target both laminin-332  
and type XVII collagen.  
*Br J Dermatol*, in press.
14. Hamade Y, Arita K, Toyonaga E, Inokuma D, Hamasaka K, Shimizu H:  
Lichen Planus in Childhood Showing Various Cutaneous Features.  
*Acta Derm Venereol*, in press.
15. Fujita Y, Inokuma D, Abe R, Sasaki M, Nakamura H, Shimizu T, Shimizu H:  
Conversion from human haematopoietic stem cells to keratinocytes requires keratinocyte secretory factors.  
*Clin Exp Dermatol*, in press.
16. Yoshihisa Y, Makino T, Matsunaga K, Honda A, Norisugi O, Abe R, Shimizu H, Shimizu T:  
Macrophage migration inhibitory factor is essential for eosinophil recruitment in allergen-induced skin  
inflammation.  
*J Invest Dermatol* 131: 925-931, 2011.
17. Yanagi T, Akiyama M, Nishihara H, Miyamura Y, Sakai K, Tanaka S, Shimizu H:  
AKT has an anti-apoptotic role in ABCA12-deficient keratinocytes.  
*J Invest Dermatol* 131: 1942-1945, 2011.
18. Umemoto H, Akiyama M, Yanagi T, Sakai K, Aoyama Y, Oizumi A, Suga Y, Kitagawa Y, Shimizu H:  
New insight into genotype/phenotype correlations in ABCA12 mutations in harlequin ichthyosis.  
*J Dermatol Sci* 61: 136-138, 2011.
19. Tanimura S, Tadokoro Y, Inomata K, Binh NT, Nishie W, Yamazaki S, Nakauchi H, Tanaka Y, McMillan JR,  
Sawamura D, Yancey K, Shimizu H, Nishimura EK:  
Hair follicle stem cells provide a functional niche for melanocyte stem cells.  
*Cell Stem Cell* 8: 177-187, 2011.
20. Tanimura S, Ota M:  
Disseminated erythema multiforme-like reaction triggered by tinea unguium.  
*Mycoses* 54: e641-642, 2011.

21. Suga H, Tsunemi Y, Sugaya M, Shinkuma S, Akiyama M, Shimizu H, Sato S:  
Hair shaft abnormalities in localized autosomal recessive hypotrichosis 2 and a review of other non-syndromic human alopecias.  
*Acta Derm Venereol* 91: 486-488, 2011.
22. Osawa R, Akiyama M, Izumi K, Ujiie H, Sakai K, Nemoto-Hasebe I, Yanagi T, Koizumi H, Shimizu H:  
Extremely severe palmoplantar hyperkeratosis in a generalized epidermolytic hyperkeratosis patient with a keratin 1 gene mutation.  
*J Am Acad Dermatol* 64: 991-993, 2011.
23. Nishie W, Kiritsi D, Nystrom A, Hofmann SC, Bruckner-Tuderman L:  
Dynamic Interactions of Epidermal Collagen XVII with the Extracellular Matrix Laminin 332 as a Major Binding Partner.  
*Am J Pathol* 179: 829-837, 2011.
24. Natsuga K, Nishie W, Smith BJ, Shinkuma S, Smith TA, Parry DA, Oiso N, Kawada A, Yoneda K, Akiyama M, Shimizu H:  
Consequences of Two Different Amino-Acid Substitutions at the Same Codon in KRT14 Indicate Definitive Roles of Structural Distortion in Epidermolysis Bullosa Simplex Pathogenesis.  
*J Invest Dermatol* 131: 1869-1876, 2011.
25. Natsuga K, Nishie W, Shinkuma S, Nakamura H, Matsushima Y, Tatsuta A, Komine M, Shimizu H:  
Expression of exon-8-skipped kindlin-1 does not compensate for defects of Kindler syndrome.  
*J Dermatol Sci* 61: 38-44, 2011.
26. Natsuga K, Nishie W, Shinkuma S, Nakamura H, Arita K, Yoneda K, Kusaka T, Yanagihara T, Kosaki R, Sago H, Akiyama M, Shimizu H:  
A founder effect of c.1938delC in ITGB4 underlies junctional epidermolysis bullosa and its application for prenatal testing.  
*Exp Dermatol* 20: 74-76, 2011.
27. Nakamura H, Natsuga K, Nishie W, McMillan JR, Sawamura D, Akiyama M, Shimizu H:  
DNA-based prenatal diagnosis of plectin-deficient epidermolysis bullosa simplex associated with pyloric atresia.  
*Int J Dermatol* 50: 439-442, 2011.
28. Nakajima K, Sano S, Uchida Y, Akiyama M, Morita Y, Shimizu H:  
Altered lipid profiles in the stratum corneum of Sjogren-Larsson syndrome.  
*J Dermatol Sci* 63: 64-66, 2011.

29. Murrell DF, Daniel BS, Joly P, Borradori L, Amagai M, Hashimoto T, Caux F, Marinovic B, Sinha AA, Hertl M, Bernard P, Sirois D, Cianchini G, Fairley JA, Jonkman MF, Pandya AG, Rubenstein D, Zillikens D, Payne AS, Woodley D, Zambruno G, Aoki V, Pincelli C, Diaz L, Hall RP, Meurer M, Mascaro JM, Jr., Schmidt E, Shimizu H, Zone J, Swerlick R, Mimouni D, Culton D, Lipozencic J, Bince B, Bystryrn JC, Werth VP:  
Definitions and outcome measures for bullous pemphigoid: Recommendations by an international panel of experts.  
*J Am Acad Dermatol*, 2011.
30. Lin HY, Yanagi T, Akiyama M, Iitani MM, Moriuchi R, Natsuga K, Shinkuma S, Yamane N, Inokuma D, Arita K, Shimizu H:  
Childhood subepidermal blistering disease with autoantibodies to type VII collagen and laminin-332.  
*Br J Dermatol* 164: 452-454, 2011.
31. Li Q, Frank M, Akiyama M, Shimizu H, Ho SY, Thisse C, Thisse B, Sprecher E, Uitto J:  
Abca12-mediated lipid transport and Snap29-dependent trafficking of lamellar granules are crucial for epidermal morphogenesis in a zebrafish model of ichthyosis.  
*Dis Model Mech* 4: 777-785, 2011.
32. Kusajima E, Akiyama M, Sato M, Natsuga K, Shimizu H:  
Type XVII collagen ELISA indices significantly decreased after bullous pemphigoid remission.  
*Int J Dermatol* 50: 238-240, 2011.
33. Kikuchi K, Natsuga K, Shinkuma S, Nishie W, Kajita S, Sato H, Shimizu H:  
Subepidermal blistering disease with 3 distinct autoantibodies: Anti-BP230, anti-laminin gamma-1, and anti-laminin-332.  
*J Am Acad Dermatol* 65: 878-880, 2011.
34. Kikuchi K, Arita K, Tateishi Y, Onozawa M, Akiyama M, Shimizu H:  
Recurrence of hydroxyurea-induced leg ulcer after discontinuation of treatment.  
*Acta Derm Venereol* 91: 373-374, 2011.
35. Kikuchi K, Abe R, Shinkuma S, Hamasaka H, Natsuga K, Hata H, Tateishi Y, Shibata M, Tomita Y, Abe A, Aoyagi A, Mukai M, Shimizu H:  
Spontaneous Remission of Solitary-Type Infantile Myofibromatosis.  
*Case Rep Dermatol* 3: 181-185, 2011.
36. Kempf M, Miyamura Y, Liu PY, Chen AC, Nakamura H, Shimizu H, Tabata Y, Kimble RM, McMillan JR:  
A denatured collagen microfiber scaffold seeded with human fibroblasts and keratinocytes for skin grafting.  
*Biomaterials* 32: 4782-4792, 2011.

37. Fujita Y, Yoshioka N, Abe R, Murata J, Hoshina D, Mae H, Shimizu H:  
Rapid immunochromatographic test for serum granulysin is useful for the prediction of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis.  
*J Am Acad Dermatol* 65: 65-68, 2011.
38. Fujita Y, Abe R, Nishie W, Shimizu H:  
Regenerative medicine for severe congenital skin disorders: restoration of deficient skin component proteins by stem cell therapy.  
*Inflammation and Regeneration* 31: 282-289, 2011.
39. Frew J, Lim SW, Klausseger A, Chow CW, Tran K, Su J, Orchard D, Varigos G, Sawamura D, Nishie W, Shimizu H, Murrell DF:  
Autosomal dominant bullous dermolysis of the newborn associated with a heterozygous missense mutation p.G1673R in type VII collagen.  
*Australas J Dermatol* 52: e1-4, 2011.
40. Csorba K, Schmidt S, Florea F, Ishii N, Hashimoto T, Hertl M, Karpati S, Bruckner-Tuderman L, Nishie W, Sitaru C:  
Development of an ELISA for sensitive and specific detection of IgA autoantibodies against BP180 in pemphigoid diseases.  
*Orphanet J Rare Dis* 6: 31, 2011.
41. Chen AC, McNeilly C, Liu AP, Flaim CJ, Cuttle L, Kendall M, Kimble RM, Shimizu H, McMillan JR:  
Second harmonic generation and multiphoton microscopic detection of collagen without the need for species specific antibodies.  
*Burns* 37: 1001-1009, 2011.
42. Yoshihisa Y, Honda A, Zhao QL, Makino T, Abe R, Matsui K, Shimizu H, Miyamoto Y, Kondo T, Shimizu T:  
Protective effects of platinum nanoparticles against UV-light-induced epidermal inflammation.  
*Exp Dermatol* 19: 1000-1006, 2010.
43. Yanagi T, Shimizu H, Shimizu T:  
Occupational contact dermatitis caused by asparagus.  
*Contact Dermatitis* 63: 54, 2010.

44. Yanagi T, Akiyama M, Nishihara H, Ishikawa J, Sakai K, Miyamura Y, Naoe A, Kitahara T, Tanaka S, Shimizu H:  
Self-improvement of keratinocyte differentiation defects during skin maturation in ABCA12-deficient harlequin ichthyosis model mice.  
*Am J Pathol* 177: 106-118, 2010.
45. Yamane A, Fukui M, Sugimura Y, Itoh M, Alea MP, Thomas V, El Alaoui S, Akiyama M, Hitomi K:  
Identification of a preferred substrate peptide for transglutaminase 3 and detection of in situ activity in skin and hair follicles.  
*FEBS J* 277: 3564-3574, 2010.
46. Wang G, Ujiie H, Shibaki A, Nishie W, Tateishi Y, Kikuchi K, Li Q, McMillan JR, Morioka H, Sawamura D, Nakamura H, Shimizu H:  
Blockade of autoantibody-initiated tissue damage by using recombinant fab antibody fragments against pathogenic autoantigen.  
*Am J Pathol* 176: 914-925, 2010.
47. Uo M, Asakura K, Watanabe E, Hayashi I, Yanagi T, Shimizu H, Watari F:  
A study of Zinc Contained in Yellow and Black Discolored Nails by X-ray Fluorescence and X-ray Absorption Fine Structure Analyses.  
*Nano Biomedicine* 2: 103-106, 2010.
48. Ujiie H, Shibaki A, Nishie W, Sawamura D, Wang G, Tateishi Y, Li Q, Moriuchi R, Qiao H, Nakamura H, Akiyama M, Shimizu H:  
A novel active mouse model for bullous pemphigoid targeting humanized pathogenic antigen.  
*J Immunol* 184: 2166-2174, 2010.
49. Ujiie H, Shibaki A, Akiyama M, Shimizu H:  
Successful treatment of nail lichen planus with topical tacrolimus.  
*Acta Derm Venereol* 90: 218-219, 2010.
50. Ujiie H, Kodama K, Akiyama M, Shimizu H:  
Hereditary benign telangiectasia: two families with punctate telangiectasias surrounded by anemic halos.  
*Arch Dermatol* 146: 98-99, 2010.
51. Ujihara M, Nakajima K, Yamamoto M, Teraishi M, Uchida Y, Akiyama M, Shimizu H, Sano S:  
Epidermal triglyceride levels are correlated with severity of ichthyosis in Dorfman-Chanarin syndrome.  
*J Dermatol Sci* 57: 102-107, 2010.

52. Uchida Y, Cho Y, Moradian S, Kim J, Nakajima K, Crumrine D, Park K, Ujihara M, Akiyama M, Shimizu H, Holleran WM, Sano S, Elias PM:  
Neutral lipid storage leads to acylceramide deficiency, likely contributing to the pathogenesis of Dorfman-Chanarin syndrome.  
*J Invest Dermatol* 130: 2497-2499, 2010.
53. Tsuruta D, Akiyama M, Ishida-Yamamoto A, Imanishi H, Mizuno N, Sowa J, Kobayashi H, Ishii M, Kurokawa I, Shimizu H:  
Three-base deletion mutation c.120\_122delGTT in ATP2A2 leads to the unique phenotype of comedonal Darier disease.  
*Br J Dermatol* 162: 687-689, 2010.
54. Shinkuma S, Natsuga K, Nishie W, Shimizu H:  
Epidermolysis bullosa in Japan.  
*Dermatol Clin* 28: 431-432, xvi, 2010.
55. Shinkuma S, Akiyama M, Inoue A, Aoki J, Natsuga K, Nomura T, Arita K, Abe R, Ito K, Nakamura H, Ujiie H, Shibaki A, Suga H, Tsunemi Y, Nishie W, Shimizu H:  
Prevalent LIPH founder mutations lead to loss of P2Y5 activation ability of PA-PLA1alpha in autosomal recessive hypotrichosis.  
*Hum Mutat* 31: 602-610, 2010.
56. Shimizu S, Yasui C, Tajima Y, Tsuchiya K:  
Unusual cutaneous features of syphilis in patients positive for human immunodeficiency virus.  
*Clin Exp Dermatol* 35: 169-172, 2010.
57. Shimizu S, Yasui C, Shiroshita K, Ichimura K, Tsuchiya K:  
Calciphylaxis with unusual skin manifestations.  
*Eur J Dermatol* 20: 241-242, 2010.
58. Shimizu S, Natsuga K, Shinkuma S, Yasui C, Tsuchiya K, Shimizu H:  
Localized Linear IgA/IgG Bullous Dermatitis.  
*Acta Derm Venereol* 90: 621-624, 2010.
59. Sakai K, Akiyama M, Yanagi T, Nampoothiri S, Mampilly T, Sunitha V, Shimizu H:  
An Indian family with Sjogren-Larsson syndrome caused by a novel ALDH3A2 mutation.  
*Int J Dermatol* 49: 1031-1033, 2010.

60. Saito N, Yanagi T, Akiyama M, Lin HY, Kasai S, Fujita Y, Yamane N, Inokuma D, Kase S, Ono K, Minakawa H, Shimizu H:  
Pyoderma Gangrenosum of the Eyelid: Report of Two Cases and Review of the Literature.  
*Dermatology* 221: 211-215, 2010.
61. Saito N, Yamane N, Matsumura W, Fujita Y, Inokuma D, Kuroshima S, Hamasaka K, Shimizu H:  
Generalized exacerbation of systemic allergic dermatitis due to zinc patch test and dental treatments.  
*Contact Dermatitis* 62: 372-373, 2010.
62. Ota M, Kawasaki H, Horimoto M:  
Ice cream urticaria.  
*Am J Med* 123: e1-2, 2010.
63. Osawa R, Konno S, Akiyama M, Nemoto-Hasebe I, Nomura T, Nomura Y, Abe R, Sandilands A, McLean WH, Hizawa N, Nishimura M, Shimizu H:  
Japanese-specific filaggrin gene mutations in Japanese patients suffering from atopic eczema and asthma.  
*J Invest Dermatol* 130: 2834-2836, 2010.
64. Oji V, Tadani G, Akiyama M, Blanchet Bardon C, Bodemer C, Bourrat E, Coudiere P, Digiovanna JJ, Elias P, Fischer J, Fleckman P, Gina M, Harper J, Hashimoto T, Hausser I, Hennies HC, Hohl D, Hovnanian A, Ishida-Yamamoto A, Jacyk WK, Leachman S, Leigh I, Mazereeuw-Hautier J, Milstone L, Morice-Picard F, Paller AS, Richard G, Schmuth M, Shimizu H, Sprecher E, Van Steensel M, Taieb A, Toro JR, Vabres P, Vahlquist A, Williams M, Traupe H:  
Revised nomenclature and classification of inherited ichthyoses: Results of the First Ichthyosis Consensus Conference in Soreze 2009.  
*J Am Acad Dermatol* 63: 607-641, 2010.
65. Nomura Y, Ota M, Tochimaru H:  
Self-healing congenital generalized skin creases: Michelin tire baby syndrome.  
*J Am Acad Dermatol* 63: 1110-1111, 2010.
66. Nomura Y, Akiyama M, Nomura T, Nemoto-Hasebe I, Abe R, McLean WH, Shimizu H:  
Chromosome 11q13.5 variant: No association with atopic eczema in the Japanese population.  
*J Dermatol Sci* 59: 210-212, 2010.

67. Nishie W, Lamer S, Schlosser A, Licarete E, Franzke CW, Hofmann SC, Jackow J, Sitaru C, Bruckner-Tuderman L:  
Ectodomain shedding generates Neoepitopes on collagen XVII, the major autoantigen for bullous pemphigoid.  
*J Immunol* 185: 4938-4947, 2010.
68. Natsuga K, Sawamura D, Goto M, Homma E, Goto-Ohguchi Y, Aoyagi S, Akiyama M, Kuroyanagi Y, Shimizu H:  
Response of intractable skin ulcers in recessive dystrophic epidermolysis bullosa patients to an allogeneic cultured dermal substitute.  
*Acta Derm Venereol* 90: 165-169, 2010.
69. Natsuga K, Nishie W, Shinkuma S, Moriuchi R, Shibata M, Nishimura M, Hashimoto T, Shimizu H:  
Circulating IgA and IgE autoantibodies in antilaminin-332 mucous membrane pemphigoid.  
*Br J Dermatol* 162: 513-517, 2010.
70. Natsuga K, Nishie W, Shinkuma S, Arita K, Nakamura H, Ohyama M, Osaka H, Kambara T, Hirako Y, Shimizu H:  
Plectin deficiency leads to both muscular dystrophy and pyloric atresia in epidermolysis bullosa simplex.  
*Hum Mutat* 31: E1687-1698, 2010.
71. Natsuga K, Nishie W, Arita K, Shinkuma S, Nakamura H, Kubota S, Imakado S, Akiyama M, Shimizu H:  
Complete paternal isodisomy of chromosome 17 in junctional epidermolysis bullosa with pyloric atresia.  
*J Invest Dermatol* 130: 2671-2674, 2010.
72. Natsuga K, Nishie W, Akiyama M, Nakamura H, Shinkuma S, McMillan JR, Nagasaki A, Has C, Ouchi T, Ishiko A, Hirako Y, Owaribe K, Sawamura D, Bruckner-Tuderman L, Shimizu H:  
Plectin expression patterns determine two distinct subtypes of epidermolysis bullosa simplex.  
*Hum Mutat* 31: 308-316, 2010.
73. Murata I, Hayashi M, Hozumi Y, Fujii K, Mitsuhashi Y, Oiso N, Fukai K, Kuroki N, Mori Y, Utani A, Tomita Y, Fujita Y, Suzuki T:  
Mutation analyses of patients with dyschromatosis symmetrica hereditaria: five novel mutations of the ADAR1 gene.  
*J Dermatol Sci* 58: 218-220, 2010.
74. Mitsutake S, Suzuki C, Akiyama M, Tsuji K, Yanagi T, Shimizu H, Igarashi Y:  
ABCA12 dysfunction causes a disorder in glucosylceramide accumulation during keratinocyte differentiation.  
*J Dermatol Sci* 60: 128-129, 2010.



75. Matunaga Y, Goto A, Fujii K, Nakamura H, Itoh M, Wakasugi H, Suzuki K, Yonezawa K, Abe T, Shinomura Y: Desquamative esophagitis due to pemphigus vulgaris. *Endoscopy* 42 Suppl 2: E285, 2010.
76. Lin MW, Lee DD, Liu TT, Lin YF, Chen SY, Huang CC, Weng HY, Liu YF, Tanaka A, Arita K, Lai-Cheong J, Palisson F, Chang YT, Wong CK, Matsuura I, McGrath JA, Tsai SF: Novel IL31RA gene mutation and ancestral OSMR mutant allele in familial primary cutaneous amyloidosis. *Eur J Hum Genet* 18: 26-32, 2010.
77. Li Q, Ujiie H, Shibaki A, Wang G, Moriuchi R, Qiao HJ, Morioka H, Shinkuma S, Natsuga K, Long HA, Nishie W, Shimizu H: Human IgG1 Monoclonal Antibody against Human Collagen 17 Noncollagenous 16A Domain Induces Blisters via Complement Activation in Experimental Bullous Pemphigoid Model. *J Immunol* 185: 7746-7755, 2010.
78. Li Q, Lv Y, Li C, Yi X, Long HA, Qiao H, Lu T, Luan Q, Li K, Wang X, Wang G, Gao T: Vitiligo autoantigen VIT75 is identified as lamin A in vitiligo by serological proteome analysis based on mass spectrometry. *J Invest Dermatol* 131: 727-734, 2010.
79. Li Q, Gao T, Long HA, Ujiie H: Clearance of a thick invasive squamous cell carcinoma after multiple treatments with topical photodynamic therapy. *Photomed Laser Surg* 28: 703-706, 2010.
80. Li Q, Gao T, Jiao B, Qi X, Long HA, Qiao H, Wang L, Lv Y, Hu X, Liao W, Wang S, Li C: Long-term follow-up of in situ extramammary Paget's disease in Asian skin types IV/V treated with photodynamic therapy. *Acta Derm Venereol* 90: 159-164, 2010.
81. Inokuma D, Shibaki A, Shimizu H: Two cases of cutaneous sporotrichosis in continental/microthermal climate zone: global warming alert? *Clin Exp Dermatol* 35: 668-669, 2010.
82. Iitani MM, Abe R, Yanagi T, Hamasaka A, Tateishi Y, Abe Y, Ito M, Kondo T, Kubota K, Shimizu H: Aleukemic leukemia cutis with extensive bone involvement. *J Am Acad Dermatol* 63: 539-541, 2010.

83. Hata H, Aoyagi S, Iitani MM, Homma E, Shimizu H:  
Squamous cell carcinoma in a chronic genital ulcer in Behcet's disease.  
*Acta Derm Venereol* 90: 539-540, 2010.
84. Hamasaka A, Yoshioka N, Abe R, Kishino S, Umezawa K, Ozaki M, Todo S, Shimizu H:  
Topical application of dehydroxymethylepoxyquinomicin improves allergic inflammation via NF-kappaB inhibition.  
*J Allergy Clin Immunol* 126: 400-403, 2010.
85. Fujita Y, Sato-Matsumura KC:  
Effective treatment for porphyria cutanea tarda with oral cimetidine.  
*J Dermatol* 37: 677-679, 2010.
86. Fujita Y, Abe R, Inokuma D, Sasaki M, Hoshina D, Natsuga K, Nishie W, McMillan JR, Nakamura H, Shimizu T, Akiyama M, Sawamura D, Shimizu H:  
Bone marrow transplantation restores epidermal basement membrane protein expression and rescues epidermolysis bullosa model mice.  
*Proc Natl Acad Sci U S A* 107: 14345-14350, 2010.
87. Aoyagi S, Hata H, Izumi K, Iitani MM, Shimizu H:  
Diagnostic pitfalls of using dermoscopic features to differentiate between malignant melanoma and pigmented seborrheic keratosis.  
*Acta Derm Venereol* 90: 440-441, 2010.
88. Aoyagi S, Hata H, Homma E, Shimizu H:  
Controlling the histological margin for non-melanoma skin cancer conveniently using a double-bladed scalpel.  
*J Surg Oncol* 101: 175-179, 2010.
89. Akiyama M, Sakai K, Yanagi T, Tabata N, Yamada M, Shimizu H:  
Partially disturbed lamellar granule secretion in mild congenital ichthyosiform erythroderma with ALOX12B mutations.  
*Br J Dermatol* 163: 201-204, 2010.
90. Akiyama M, Sakai K, Yanagi T, Fukushima S, Ihn H, Hitomi K, Shimizu H:  
Transglutaminase1 preferred substrate peptide K5 is an efficient tool in diagnosis of lamellar ichthyosis.  
*Am J Pathol* 176: 1592-1599, 2010.

91. Abe R, Yamagishi S, Fujita Y, Hoshina D, Sasaki M, Nakamura K, Matsui T, Shimizu T, Bucala R, Shimizu H: Topical application of anti-angiogenic peptides based on pigment epithelium-derived factor can improve psoriasis. J Dermatol Sci 57: 183-191, 2010.

### 蔵田伸雄

環境健康科学研究教育センター 兼務教員  
(北海道大学大学院文学研究科思想文化学専攻倫理学講座 教授)

(単行本分担執筆)

戸田山和久・出口康夫編

『応用哲学を学ぶ人のために』

世界思想社 2011年5月20日

(蔵田伸雄「応用哲学としての環境倫理学－環境プラグマティズムを中心に」183～195頁)

(学会発表)

蔵田伸雄「広域放射線被曝の因果性と責任」

第23回 日本生命倫理学会年次大会

大会企画特別ワークショップ「大規模災害をめぐる生命倫理と法」

早稲田大学 国際会議場 2011年10月16日

### 山内太郎

環境健康科学研究教育センター 兼務教員  
(北海道大学大学院保健科学研究院保健科学部門健康科学分野 准教授)

業績 (原著論文)

Uemura A, Mexitalia M, Susanto JC, Yamauchi T (2011) Validating predictive factors for resting energy expenditure of adolescents in Indonesia. International Journal of Food Sciences and Nutrition, 63 (2), 145-152.

萩野泉・山内太郎・川村協平・佐藤弘明 (2011) カメルーン南東部に居住するピグミー系狩猟採集民の子どもの思春期スパートと栄養状態. 日本成長学会雑誌, 17 (2), 69-76.

Lee JS, Kondo K, Kawakubo K, Kataoka Y, Mori K, Umezaki M, Yamauchi T, Asami Y, Takagi H, Akabayashi A (2011) Neighborhood environment associated with daily physical activity measured both objectively and subjectively among residents in a community in Japan. Journal of Health and Human Ecology, 77 (3), 94-107.

高橋英章・大橋明佳・茂木可苗・山内太郎 (2011) 女子看護大学生の自己体型認識と運動習慣の関連性—標準体型と隠れ肥満体型の比較—. 北海道公衆衛生学雑誌, 24(2), 43-48.

Furusawa T, Naka I, Yamauchi T, Natsuhara K, Kimura R, Nakazawa M, Ishida T, Nishida N, Eddie R, Ohtsuka R, Ohashi J (2011) The Serum Leptin Level and Body Mass Index in Melanesian and Micronesian Solomon Islanders: Focus on Genetic Factors and Urbanization. *American Journal of Human Biology*, 23(4), 435-444.

Kon S, Lekprichakul T, Yamauchi T (2011) Nutrient Intake, Physical Activity, and Behavioral Patterns of Adults Living in Three Contrasting Ecological Zones in Rural Zambia. *Vulnerability and Resilience of Social-Ecological Systems*, FY2010 FR4 Project Report, 112-122.

Yamauchi T, Kubo H, Kon S, Lekprichakul T, T. Sakurai T, Kanno H (2011) Growth and Nutritional Status of Tonga Children in Rural Zambia: Longitudinal Growth Monitoring over 26 Months. *Vulnerability and Resilience of Social-Ecological Systems*, 104-111.

山内太郎 (2010) 伝統社会におけるフィールドワーク：ライフスタイル、食と栄養の視座から。日本フードサービス学会年報, 15, 92-98.

Yamauchi T, Nakazawa M, Ohmae H, Kamei K, Sato K, Bakote'e B (2010) Impact of ethnic conflict on the nutritional status and quality of life of suburban villagers in the Solomon Islands. *Journal of Nutritional Science and Vitaminology*, 56 (4), 227-234.

Furusawa T, Naka I, Yamauchi T, Natsuhara K, Kimura R, Nakazawa M, Ishida T, Inaoka T, Matsumura Y, Ataka Y, Nishida N, Tsuchiya N, Ohtsuka R, Ohashi J (2010) The Q223R polymorphism in LEPR is associated with obesity in Pacific Islanders. *Human Genetics*, 127, 287-294.

Yamauchi T, Kon S (2010) Variation in the nutritional status of adults living in contrasting ecological zones in the southern province of Zambia. *Vulnerability and Resilience of Social-Ecological Systems*, FY2009 FR3, 45-52.

#### 河原田まり子

環境健康科学研究教育センター 兼務教員

(北海道大学大学院保健科学研究院保健科学部門創成看護学分野 教授)

#### <論文>

1) 企業労働者の抑うつと首尾一貫感覚 (SOC) との関連, 北方産業衛生 (48), 9-14, 2011, 河原田まり子, 上田泉, 平野美千代, 吉岡英治, 池野多美子, 岸玲子

2) 労働者を対象にしたストレスマネジメントプログラムの効果に関する無作為化介入研究, 平成 20, 21, 22 年度科学研究補助金 (基盤研究 (C) 研究課題番号 20592018) 研究成果報告書, 研究代表者 河原田まり子, 2011, 3月

<学会発表>

1. Kawaharada M, Ueda I, Hirano M, Akiko A, Yoshioka E, T, Ikeno T, Kishi R, The Effects of a Stress Inoculation Training Program for Telecommunications Company Workers in Japan: A Randomized Controlled Trial, The 3rd international conference on occupational health nursing & the 2nd Asia conference on occupational health nursing, 2010.8.8, Japan, Yokohama
2. 河原田まり子、松本洋子、東田晃代、成田暁子、吉岡英治、上田泉、平野美千代、池野多美子、岸玲子、民間企業の労働者を対象にしたストレスマネジメントプログラムの効果、第20回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会、2010.10.14、札幌市
3. Kawaharada M, Ueda I, Hirano M, Akiko A, Yoshioka E, T, Ikeno T, Kishi R, Relations between depression and sense of coherence among company staff, The 2nd Japan-Korea conference on community health nursing, 2011.7.2, Japan, Kobe

白石秀明

環境健康科学研究教育センター 兼務教員  
(北海道大学病院小児科 助教)

1. Yagyū K, Sueda K, Shiraishi H, Asahina N, Sakurai K, Kohsaka S, Sawamura Y, Saitoh S. Direct correlation between the facial nerve nucleus and hemifacial seizures associated with a gangliocytoma of the floor of the fourth ventricle: A case report. *Epilepsia*. 2011 52: e204-6.
2. Hideaki Shiraishi, Seppo P. Ahlfors, Steven M. Stufflebeam, Susanne Knake, Pål G. Larsson, Matti S. Hämäläinen, Kyoko Takano, Maki Okajima, Keisaku Hatanaka, Shinji Saitoh, Anders M. Dale, Eric Halgren. Comparison of Three Methods for Localizing Interictal Epileptiform Discharges With Magnetoencephalography. *J Clin Neurophysiol*. 2011; 28: 431-40.
3. Hideaki Shiraishi. Magnetoencephalography findings in medial temporal lobe epilepsy. In *The Mesial Temporal Lobe Epilepsies*, ed. Felix Rosenow, Philippe Ryvlin and Hans Luders, pp. 135-144 (2011) Surrey: John Libbey Eurotext.
4. Shiraishi H. Source localization in magnetoencephalography to identify epileptogenic foci. *Brain Dev*. 2011; 33(3):276-81
5. Yagyū K, Takeuchi F, Shiraishi H, Nakane S, Sueda K, Asahina N, Kohsaka S, Umeoka S, Usui N, Baba K, Saitoh S. The applications of time-frequency analyses to ictal magnetoencephalography in neocortical epilepsy. *Epilepsy Research* 2010; 90: 199-206.

6. Lee JW, Tanaka N, Shiraishi H, Milligan TA, Dworetzky BA, Khoshbin S, Stufflebeam SM, Bromfield EB. Evaluation of postoperative sharp waveforms through EEG and magnetoencephalography. *J Clin Neurophysiol.* 2010; 27: 7-11.
7. Sakurai K, Takeda Y, Tanaka N, Kurita T, Shiraishi H, Takeuchi F, Nakane S, Sueda K, Koyama T. Generalized spike-wave discharges involve a default mode network in patients with juvenile absence epilepsy: A MEG study. *Epilepsy Res.* 2010; 89:176-184.
8. Sueda K, Takeuchi F, Shiraishi H, Nakane S, Asahina N, Kohsaka S, Nakama H, Otsuki T, Sawamura Y, Saitoh S. MEG time-frequency analyses for pre- and post-surgical evaluation of patients with epileptic rhythmic fast activity. *Epilepsy Res.* 2010; 88: 100-107
9. 白石秀明 Dynamic statistical parametric mapping (dSPM) を用いたてんかん脳磁図解析 臨床脳波 2010; 52:127-133.

安達真由美

環境健康科学研究教育センター 兼務教員

(北海道大学大学院文学研究科人間システム科学専攻心理システム科学講座 准教授

(\*) は査読付き

(\*) Adachi, M. (2010). Music and well-being: Paradox between “wellness” and “illness” in western art music. In W. L. Lai, Y. Sakurai, & H. Wada (Eds.), *A study of healthy being: From interdisciplinary perspectives* (pp. 104-116). Matsudo, Japan: Azusa Syuppan.

安達真由美 (2011). “Happy” と “sad” —子どもはどう歌に託すのか? 千葉恵 (編), *笑い力—人文学でワッハッハ* (pp. 91-122). 札幌: 北海道大学出版会.

安達真由美・小川容子 (監訳) (2011). *演奏を支える心と科学*. 東京: 誠信書房.